

**インパクト投資とグローバルヘルスにかかる研究会
第二回研究会：補助資料**

EY新日本有限責任監査法人

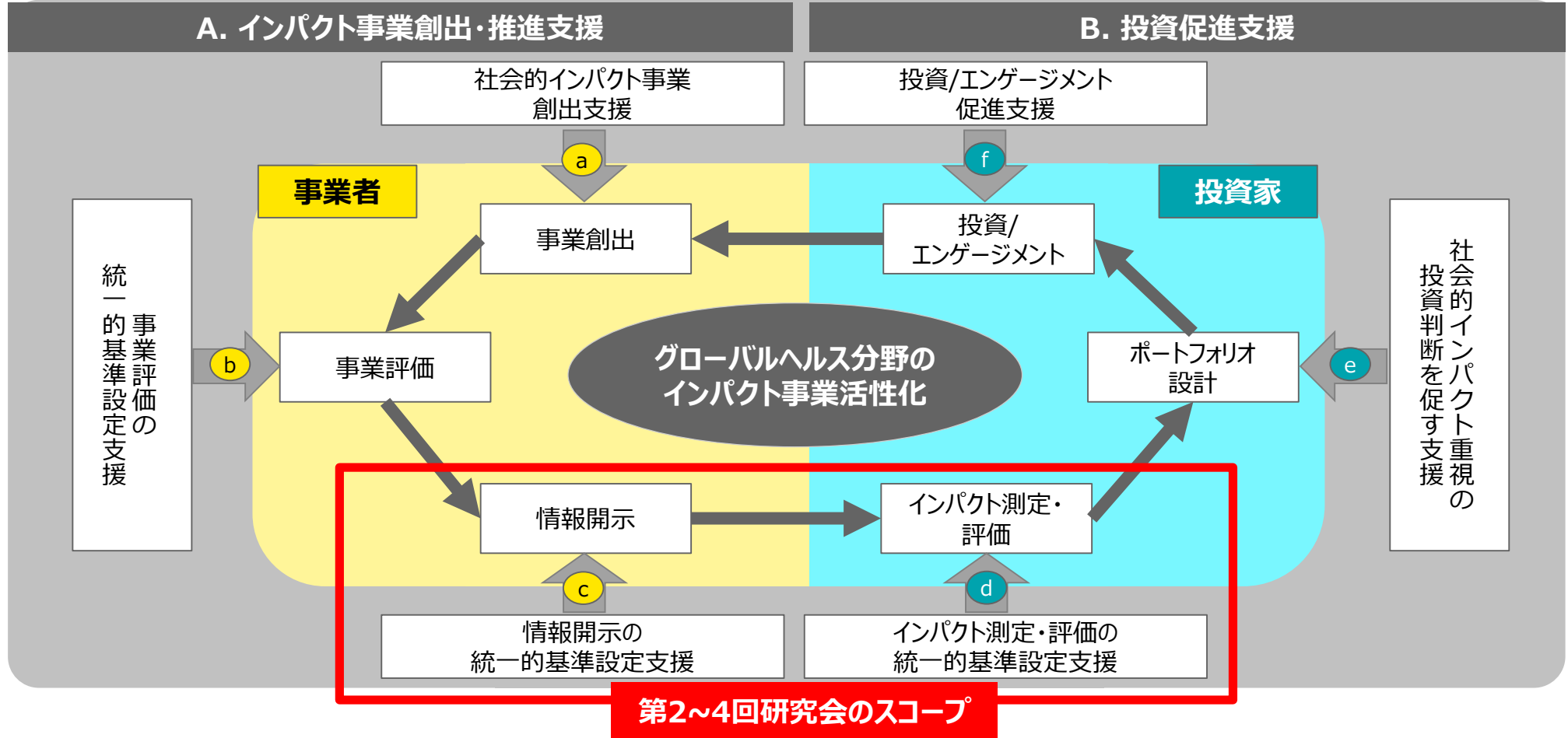
補助資料の目次

内容	ページ
1 前回の振り返りと今後の方針	p.3-p.8
2 本日のアジェンダと参考情報	p.9-p.18



1. 前回の振り返りと今後の成果物イメージ

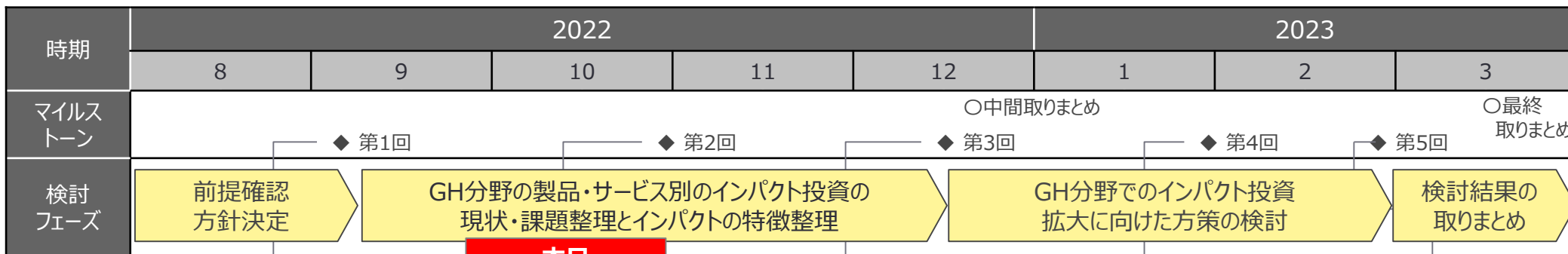
【検討のスコープ】第2～4回研究会では、グローバルヘルス分野のインパクトの測定・マネジメント（以下、IMM）に関する課題の整理と課題解決に向けた方策に焦点を絞って検討を進める。



※一部、有識者メンバーより上記a～fの6つの活動は、実務の観点から一体となって捉えるべきものもある（例えばbとf）とのコメントもあり、本研究会の最終取り纏めに際して修正を加える予定であるが、前回研究会からの形式の連続性を鑑み、当面は上図を利用する。

【本日の位置付け】今後詳細に検討する企業の活動・取組の候補を選定し、選定候補企業の活動で想定されるIMMの課題を討議する。

目的	<ul style="list-style-type: none"> 日本開催の2023年G7に向け、民間のGH分野への投資拡大を促す取組として紹介できるような成果を出す。 	想定成果物	<ul style="list-style-type: none"> GH分野におけるインパクト投資の拡大に向けた方策案 GH分野におけるインパクトの測定・可視化に適した方法とそれを実現するための支援策案
----	---	-------	--



回	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
アジェンダ	<ul style="list-style-type: none"> インパクト投資の現状・課題と対象製品・サービス 研究会の最終成果物 	<ul style="list-style-type: none"> 本研究会で取り扱う活動・取組及びインパクトの選定 インパクトの測定・マネジメント (IMM)の課題 	<ul style="list-style-type: none"> 企業の活動・取組毎のインパクト投資の現状・課題、インパクトの特徴 	<ul style="list-style-type: none"> GH分野のインパクト測定・可視化に係る課題と方策 	<ul style="list-style-type: none"> GH分野におけるインパクト投資拡大に向けた方策
想定成果物	<ul style="list-style-type: none"> インパクト投資を取り巻く現状・課題のまとめ (GH分野仮説含む) 本研究会で検討対象とする製品・サービス G7に向けた成果物イメージ 	<ul style="list-style-type: none"> インパクトの測定・マネジメントの課題 本研究会で対象とするGH分野で創出するインパクトの候補 第3回研究会で検討対象とする日本企業の活動・取組の候補 	<ul style="list-style-type: none"> 第2回で選定した企業の活動・取組に関する下記の論点を具体化 <ul style="list-style-type: none"> IMM実施における課題 事業者側の課題に対する解決施策案 	<ul style="list-style-type: none"> GH分野の製品・サービス毎のインパクト測定・可視化に適した方法 事業者の規模や状況に応じたインパクト測定・可視化に向けた支援策 インパクト加重会計の観点からの評価 	<ul style="list-style-type: none"> 投資家・事業者のそれぞれがインパクト投資・事業を活発に行うために政府が採るべき施策案 上記施策案の実行・成果の実現に向けたロードマップ

※第1回研究会の内容を踏まえて第2回以降の記載内容を一部修正した。

【前回の振り返り】前回のアジェンダ、2の討議内容は、第4・5回研究会で再度取り上げ、アジェンダ3の討議内容は企業の活動・取組を選定する形で本日取り扱う予定である。

#	アジェンダ	主な討議内容（要約）	今後の取り扱い方針
1	最終成果物のイメージ	<ul style="list-style-type: none"> □ 目的に応じた2種類の成果物があることを確認 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 特定の製品・サービス毎のインパクトの測定・マネジメントに係る施策案は対日本企業向け、グローバルヘルス分野のサブセクターの粒度で情報整理を行う場合は、グローバル・レベル向けの成果物となる、といった方向性が示された。 □ 既存の取組や海外の巻き込みの重要性を確認 <ul style="list-style-type: none"> ➢ ESGの開示の中でもグローバルヘルスの製品・サービスに該当するS(Society)については検討がグローバルレベルでも発展途上であるため、IMMのルールメイキングを行っている既存機関との連携や海外有識者を含めたタスクフォースの立ち上げ等がアイデアとして挙げた。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 第5回研究会の振り返りに活用 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 当該研究会にて、インパクト投資を取り巻く課題解決に向けた方策を検討することを予定している。 ➢ 議論の前提となるインパクト投資の現状・課題やそれを解決するための方法としての方策案に関して、第1回研究会で討議した内容を基礎に進める。
2	インパクト投資の現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> □ ①インパクト投資全般の課題、②海外と比較した際の日本のインパクト投資の課題、③グローバルヘルス分野特有の課題の3点に関する意見交換 <ul style="list-style-type: none"> ➢ ①全般の課題としては、ESGのSの部分の測定・開示に関する手法が確立されていないことや、事業者がインパクトの創出・測定に関する情報開示のメリットが少ないこと等が挙げた。 ➢ ②日本特有の課題として、未上場企業に対するインパクト投資の少なさやIMMを実践できる人材不足、インパクト投資自体の認知度の低さ、投資家側のダイバーシティの欠如やアントレプレナーシップの低さ、等が挙げた。 ➢ ③グローバルヘルス特有の課題は、海外展開を支援するようなスキームの欠如や投資家側のヘルスケア分野におけるリテラシーの低さ、低中所得国におけるインパクトの評価の不十分さ等が挙げた。 	
3	グローバルヘルスの製品・サービス選定	<ul style="list-style-type: none"> □ グローバルヘルス分野のインパクトの測定・マネジメントについて議論するに当たり、製品・サービス単位の検討ではなく、個社企業の活動・取組を下敷きに議論すべきことを確認 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 民間企業や政府機関のグローバルヘルス分野の活動・取組をプロセス（バリューチェーン）で捉え、全体を俯瞰した上で検討対象を絞る方針が挙げられた。 ➢ どのようなインパクトを出すかについては、現地の要請（ニーズ）と日本企業の強みの両方を加味することが望ましい、等の意見が出た。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 第2回研究会にて、補助資料を基に討議を行い、企業の“活動・取組”を起点とした検討対象の選定を行う <ul style="list-style-type: none"> ➢ 後段の製品・サービス×バリューチェーンの図を用いて詳細に検討を進める。

本日中心に議論する内容

【今後の方針】インパクト投資を通じてグローバルヘルス分野の民間企業の取組を活発化させるための方策について、今後は大企業とスタートアップで分けて検討を進めていく方針である。

<p>討議の前提となる背景</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ インパクト投資は、社会課題解決志向のスタートアップ企業が資金調達をする手段として先駆的に実践されてきた。 □ 現在では、海外ファンドで規模の大きいインパクト投資の実績も出始めており、目下の課題はインパクトの測定・マネジメント（IMM）が断片的で体系化されていないことに起因する、インパクトウォッシングの懸念等が挙げられている。 	
<p>本研究会の問題意識</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ UHC（ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ）を実現するためには、より多くのプレーヤーがグローバルヘルス分野の活動・取組に加わることが望ましいが、特に貢献を期待している民間企業は経済的リターン^①の低さゆえに資金調達が難しい。 □ その解決手段としてインパクト投資に注目しており、①大企業の巻き込みと②スタートアップ企業への更なる投資の両面から検討を加えて、インパクト投資を通じたグローバルヘルス分野の民間企業の活動の活性化を図りたい。 	
<p>内容</p>	<p>大企業向けのインパクト投資拡大方策検討 (主にインパクト会計を中心に)</p>	<p>スタートアップ企業向けのインパクト投資拡大方策検討 (主にインパクト投資を中心に)</p>
<p>目的</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ グローバルヘルス分野における大企業の事業のインパクトの設定、測定・マネジメントの現状・課題を整理し、解決に向けた方策を検討する。 □ 財務的及び非財務的な情報の可視化を通じた企業価値向上（市場マルチプル向上）に向けた方策を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> □ グローバルヘルス分野におけるスタートアップの事業のインパクトの設定、測定・マネジメントの現状・課題を整理し、解決に向けた方策を検討する。
<p>方針</p>	<p>第2回</p> <ul style="list-style-type: none"> □ グローバルヘルスのバリューチェーン毎に企業の活動を俯瞰し、今後インパクトを測定・マネジメントすべき対象を選定する。 <p>第3回</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 選定した大企業の活動のロジックモデルを試作し、インパクトの設定・測定・マネジメントに関する事業者側/投資家側それぞれが直面する課題を整理する。 <p>第4回</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 大企業の振る舞いを変化させることが期待できるインパクト加重会計(IWAI)の適用も見据えた、インパクトの測定・マネジメントの課題解決策に関して検討する。 <p>第5回</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 上記検討を通じて導出した課題及び解決策を取り纏めて、グローバルヘルス分野におけるインパクト投資の促進に向けた統合的な施策案と実現に向けて必要となるアクション（取組）について検討する。 	<p>第2回</p> <ul style="list-style-type: none"> □ グローバルヘルス分野への貢献が期待できるスタートアップ企業の内、本研究会への協力が期待できる企業を選定する。 <p>第3回</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 選定したスタートアップ企業の活動のロジックモデルを試作し、インパクトの設定・測定・マネジメントに関する事業者側/投資家側それぞれが直面する課題を整理する。 <p>第4回</p> <ul style="list-style-type: none"> □ インパクトの測定・マネジメントにおけるスタートアップ企業ならではの課題の解決策に関して検討する。

(参考) 本研究会の最終成果物は、各回のアジェンダと対応させて検討を進める。前回挙げられたアイデアも、改めて第4・5回研究会にて討議することを予定している。

進め方

- 第3回研究会までは、最終成果物の前半部分（インパクトの測定・マネジメントの課題）を討議する。
- 第4・5回研究会にて、最終成果物のコア部分（課題解決のための方策案）を討議する。

最終成果物作成の完成に向けて事務局が最終的に取り纏める際のイメージ（現時点版）

最終成果物 “グローバルヘルス”パート	各回のアジェンダと反映・具体化する内容（イメージ）
<ul style="list-style-type: none"> □ (背景・目的) <ul style="list-style-type: none"> 	<ul style="list-style-type: none"> □ 「グローバルヘルス戦略」や昨今のグローバルヘルスやインパクト投資に関連する有識者会議の内容を勘案して作成する想定。
<ul style="list-style-type: none"> □ (インパクト投資の現状・課題) <ul style="list-style-type: none"> 	<ul style="list-style-type: none"> □ 第1回研究会のアジェンダ「インパクト投資の現状・課題」でのご発言内容を、机上調査結果に含めて反映させる想定。
<ul style="list-style-type: none"> □ (グローバルヘルス分野に特有のインパクトとインパクト測定・可視化・マネジメントの課題) <ul style="list-style-type: none"> 	<ul style="list-style-type: none"> □ 第2回研究会にて、机上調査と有識者からのインプットに基づき作成する想定。 □ 第3回研究会にて、個別の活動・取組におけるインパクトの測定・マネジメントを討議し、内容の拡充を図る想定。
<ul style="list-style-type: none"> □ (グローバルヘルス分野における日本の貢献余地) <ul style="list-style-type: none"> 	<ul style="list-style-type: none"> □ 第2～5回研究会にて、新興国・途上国のニーズや日本の民間企業の強みを討議する中で、幾つかの貢献余地の高い部分を抽出し、反映させる想定。
<ul style="list-style-type: none"> □ (グローバルヘルス分野におけるインパクト投資拡大方策案) <ul style="list-style-type: none"> 	<ul style="list-style-type: none"> □ 第4・5回研究会にて詳細に討議して、内容を具体化させる想定。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 第1回研究会においては、日本企業向けとグローバル向けのそれぞれについて、インパクト投資拡大方策案を示すこと、グローバルヘルス分野のインパクトの測定・マネジメントの方針を検討するようなタスクフォースを海外研究機関と連携して実施すること等が挙げられており、これらも含めてより具体的に検討する。
<ul style="list-style-type: none"> □ (拡大方策案の実現に向けたアクションプラン) <ul style="list-style-type: none"> 	<ul style="list-style-type: none"> □ 第5回研究会にて、インパクト投資拡大方策案の実現に向けたステップと時間軸を検討して、その内容を反映させる想定。



2. 本日のアジェンダと参考情報

【本日のアジェンダ】第3・4回研究会で詳細に検討するグローバルヘルス分野の活動・取組について選定を行った上で、大企業・スタートアップ企業のそれぞれのIMMの現状・課題を討議する。

アジェンダ 1

今後詳細に検討する企業の活動・取組の選定

- 今後ロジックモデルを作成して、インパクトの発現方法やIMMの観点から見た現状・課題を検討する企業の活動・取組を選定する
 - ・ 過去の調査事業や「グローバルヘルスを応援するビジネスリーダー有志一同」に加えて、本研究会の有識者ご推薦企業の中から候補を挙げている

アジェンダ 2

IMMの現状・課題（大企業）

- 選定した大企業のインパクトの測定やインパクトのマネジメントにおいて直面することが想定される課題に関して議論をする
 - ・ 今回討議した内容を“課題仮説”として、第3回研究会に向けて検証することを想定。

IMMの現状・課題（スタートアップ企業）

- 選定したスタートアップ企業のインパクトの測定やインパクトのマネジメントにおいて直面することが想定される課題に関して議論をする
 - ・ 今回討議した内容を“課題仮説”として、第3回研究会に向けて検証することを想定。

討議事項

		Value Chain					インパクト (最終アウトカム)
		研究・開発	設計・製造	流通	販売	普及・利活用	
医療機器	Value Chain	「診断装置の開発・提供」 ススメックス社					<ul style="list-style-type: none"> □ 死亡率の低下 □ 医療アクセスの向上 □ 医薬品へのアクセスの向上 □ 失明率の低下 □ …
	Product/Service	「結核のスクリーニング検査機械」 富士フィルム社					
製薬	Value Chain	「感染症治療薬のR&D」 地野義製薬社		「ワクチン提供のラストワンマイル」 豊田油高社、ヤマハ社		<ul style="list-style-type: none"> □ QoLの向上 □ 病気発症率の低下 □ 生活習慣病患者の低下 □ … 	
	Value Chain	「マラリアやNTDsの治療薬の開発、リンパ系フィリア症治療薬の製造と無償提供」 エーザイ社		「ワクチン接種時本人確認のため生体認証技術の仕組みの提供」 NECH社			
	Product/Service	「AI技術応用した次世代ワクチンの開発」 NECH社		「ドローンによる遠隔地への薬の配送」 Zioline社			
医療アクセス	Value Chain	「患者向けの症状検索エンジンと医療機関向けのAI問診エンジンを繋ぐ医療データプラットフォームの運営」 ubie社					<ul style="list-style-type: none"> □ QoLの向上 □ 病気発症率の低下 □ 生活習慣病患者の低下 □ …
Product/Service	「がん母子保健・栄養改善ITインフラ提供」 NECH社						
治療・予防	Value Chain	「栄養サポート「KOKO Plus」による離乳期の子供の栄養改善」 味の素社					<ul style="list-style-type: none"> □ QoLの向上 □ 病気発症率の低下 □ 生活習慣病患者の低下 □ …
	Value Chain	「Smart Eye Cameraを活用した医療過疎地への眼科遠隔診療モデル」 (ケニア) OUI Inc.					
	Product/Service	「治療アプリによる生活習慣病への治療」 CureApp社					
保健・衛生	Value Chain	「スマートフォン接続型眼科診療機器による専門医遠隔相談サービス」 (モンゴル) MITAS Medical社					<ul style="list-style-type: none"> □ QoLの向上 □ 病気発症率の低下 □ 生活習慣病患者の低下 □ …
	Value Chain	「ドローン・AI機器によるボウフラ発生源管理」 SORA Technology社					
	Product/Service	「開発途上国向け簡易式トリスチム(SATO)の販売」 LIXIL社					
Value Chain	「医療現場改善、感染予防文化の浸透、NTDs対策」 サラド社					<ul style="list-style-type: none"> □ QoLの向上 □ 病気発症率の低下 □ 生活習慣病患者の低下 □ … 	
Product/Service	「自立支援型サービスの提供」 ノリス社						

※インパクトの測定・マネジメント（IMM）は、GSGの以下の定義を前提以降使用する。

- ・ インパクト測定：インパクトを定量的・定性的に把握し、事業や活動について価値判断を加えること
- ・ インパクトマネジメント：インパクト測定を運用プロセスに組み込み、得られた情報をもとに事業改善や意思決定を行うことでインパクトの向上を目指すプロセスのこと



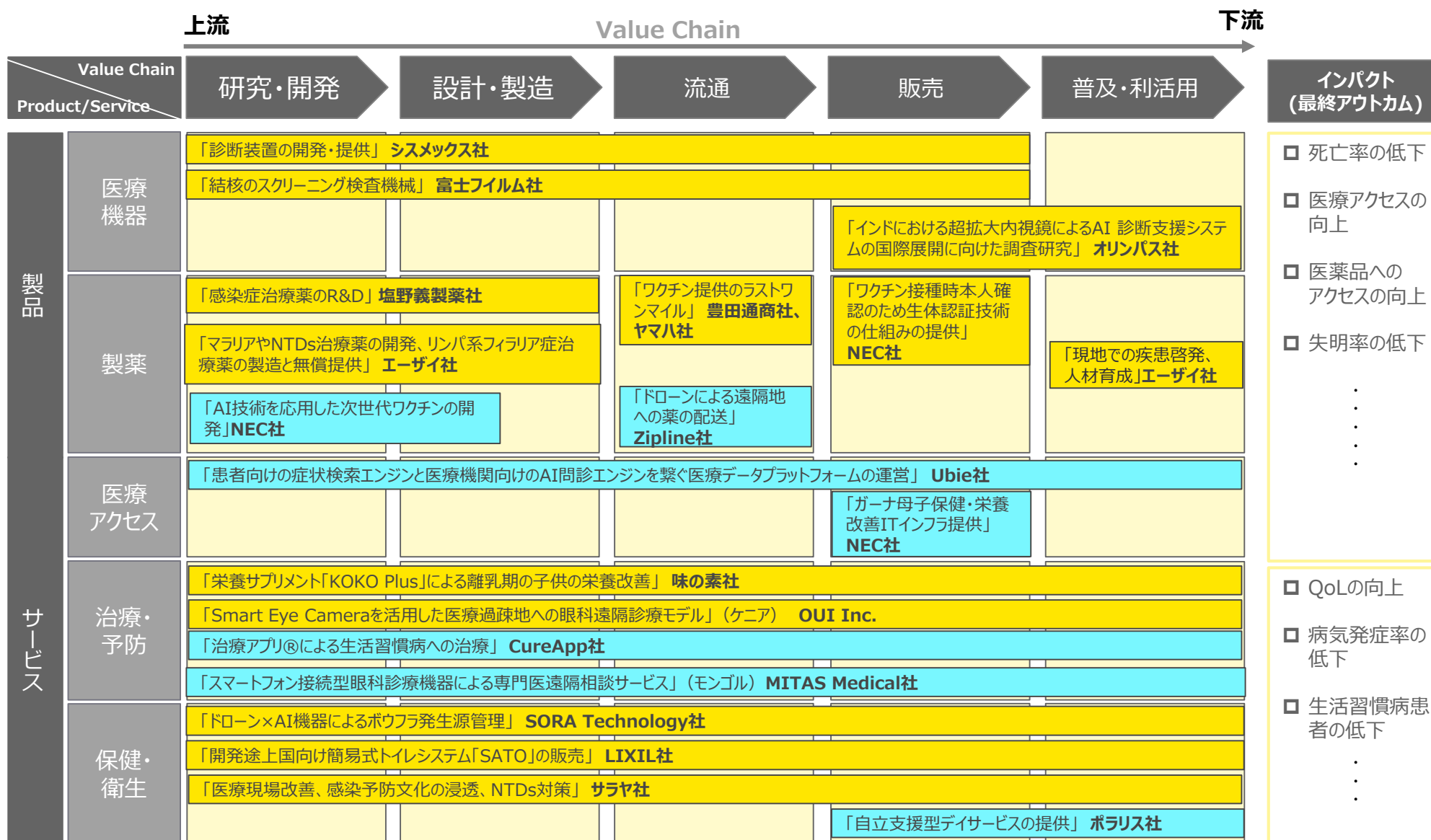
2-1.アジェンダ1. 今後詳細に検討する企業の活動・取組の選定

本日は、“製品・サービス×Value Chain”で作成した鳥観図を用いて、グローバルヘルス分野で活躍するどの企業の活動・取組を対象として、IMMの課題や解決に向けた方策を検討するかを決定する。

論点	<ul style="list-style-type: none"> □ G7で世界に向けて発信することを見据えて、インパクト投資を通じて下記目的を達成する出来るような活動・取組を選定する。 <ul style="list-style-type: none"> ①日本企業も世界の企業も共に取り組んでいる事業を支援する ②日本が先行して取り組んでいる事業を更に後押しする
----	---

		Value Chain					
		上流				下流	
Value Chain	Product/Service	研究・開発	設計・製造	流通	販売	普及・利活用	インパクト (最終アウトカム)
製品	医療機器						<ul style="list-style-type: none"> □ 死亡率の低下 □ 医療アクセスの向上 □ 医薬品へのアクセスの向上 □ 失明率の低下 ⋮ ⋮ ⋮
	製薬						
サービス	医療アクセス			フレームワーク			<ul style="list-style-type: none"> □ QoLの向上 □ 病気発症率の低下 □ 生活習慣病患者の低下 ⋮ ⋮ ⋮
	治療・予防						
	保健・衛生						

グローバルヘルス分野において先駆的に活動している企業（黄色）や有識者メンバーからの推薦企業（水色）をプロットした。この中から大企業・スタートアップ企業の候補を選定する。



「* 上記、プロジェクトは、パートナーシップを活用した取り組みも含む」

参照：有志の会 (<https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000000010.000076537.html>)
 内閣官房「主要国及び主要ステークホルダーによるグローバルヘルスへの取組に係る調査分析 調査報告書」他、
 研究会有識者メンバーからのご推薦

(参考) グローバルヘルスを応援するビジネスリーダー有志一同のご登壇企業や前年度調査からグローバルヘルス分野での実績のある企業の事業概要と提供価値について整理した。

#	製品/サービス*	企業名	事業概要	提供価値 (≒インパクト)
1	医療機器	シスメックス	<ul style="list-style-type: none"> 医療人材の能力開発も支援 マラリア診断装置を開発 	<ul style="list-style-type: none"> アフリカ医療環境改善 マラリアのない世界の実現
2		富士フイルム	<ul style="list-style-type: none"> 結核の検査に活用できる携帯型X線撮影システム AI技術による胸部X線画像病変検出ソフトウェア 	<ul style="list-style-type: none"> 開発途上国における死亡率低減 開発途上国における地方での医療格差是正
3		オリンパス	<ul style="list-style-type: none"> インドにおける超拡大内視鏡によるAI診断支援システムの国際展開に向けた調査研究 	<ul style="list-style-type: none"> がんの革新的な検査技術を用いた早期診断による医療アクセスへの向上及び治療費の削減
4	製薬	塩野義製薬	<ul style="list-style-type: none"> 感染症治療薬の研究開発 適正医療を実現できる医療基盤の整備 	<ul style="list-style-type: none"> 抗菌薬の提供と適正使用普及させる体制の確立を通じた、感染症治療への貢献
5		エーザイ	<ul style="list-style-type: none"> マラリアやNTDs治療薬の開発、リンパ系フィラリア症治療薬の製造と無償提供 現地での疾患啓発、人材育成 	<ul style="list-style-type: none"> マラリアやNTDsによる負担のない世界を次世代へ
6	(流通)	豊田通商/ヤマハ	<ul style="list-style-type: none"> 車両やドローンによるワクチン、血液、医薬品の配達 クリーンウォーター装置の普及 	<ul style="list-style-type: none"> ラストワンマイルの課題解決 途上国におけるワクチン輸送の課題解決
7	(販売)	NEC	<ul style="list-style-type: none"> ICTによるヘルスケア・プラットフォームの構築 幼児指紋認証技術によるワクチン接種配布効率化 	<ul style="list-style-type: none"> 多様なステークホルダーのプラットフォーム構築 予防可能な病気から子供たちの保護
8	治療・予防	味の素	<ul style="list-style-type: none"> ガーナでの栄養サプリメント「KOKO Plus」の開発及び販売、ビジネス化支援及び栄養教育 	<ul style="list-style-type: none"> 離乳期の子供の栄養改善
9		OUI Inc.	<ul style="list-style-type: none"> スマートフォンを活用した眼科向け医療機器の販売普及及び同機器を使った眼科医療の提供促進 	<ul style="list-style-type: none"> 予防可能・治療可能な病気による失明を50%減らし、眼から人々の健康を守る
10	保健・衛生	SORA Technology	<ul style="list-style-type: none"> ボウフラ発生源管理をドローンとAIによる実施 	<ul style="list-style-type: none"> マラリア撲滅
11		LIXIL	<ul style="list-style-type: none"> 開発途上国向け簡易式トイレシステム「SATO」の販売 (エチオピア、ケニア、タンザニア、他) 	<ul style="list-style-type: none"> 現地に根差した事業として雇用の創出 継続的な衛生環境の改善による生活の質向上
12		サラヤ	<ul style="list-style-type: none"> 感染予防の資材提供 大学と連携した医薬品の開発 手洗い文化の普及活動 	<ul style="list-style-type: none"> 医療現場改善及び感染予防文化や熱帯病 (以下、NTDs) の減少 開発途上国の母子保護、母子保健の改善

(参考) 本研究会の有識者委員からご推薦された企業の事業概要と提供価値について整理した。

#	製品/サービス*	企業名	事業概要	提供価値 (≒インパクト)
1	製薬	NEC	<ul style="list-style-type: none"> 世界最先端のAI技術を応用し、CEPIと共にベータコロナウイルス共通の抗原探索による次世代ワクチン創薬 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスのワクチン提供を通じた感染者の死亡・重症化リスクの低減
2	(流通)	Zipline	<ul style="list-style-type: none"> ルワンダ、ガーナにおける血液及び薬剤輸送の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 僻地や新興国等の医療インフラの整備が途上の地域における医療アクセスの向上
3	医療アクセス	Ubie	<ul style="list-style-type: none"> 患者向けの症状検索エンジンと医療機関向けのAI問診エンジンを繋ぐ医療データプラットフォームの運営 	<ul style="list-style-type: none"> 適切な情報提供に基づく医療資源配分の効率化及び医療アクセスの向上
4	(販売)	NEC	<ul style="list-style-type: none"> 現在の健康状態を把握して、母子の行動変容を促すICTの活用で現地保健師への人材育成 (味の素ファウンデーション、シスメックスとの共同プロジェクト) 	<ul style="list-style-type: none"> 途上国の栄養改善への貢献
5	治療・予防	CureApp	<ul style="list-style-type: none"> 依存症や生活習慣病等の疾患に対するソリューションである「治療アプリ」の開発・販売 	<ul style="list-style-type: none"> 現存する医療格差を減らし、より多くの人への医療アクセスを提供
6		MITAS Medical	<ul style="list-style-type: none"> スマートフォン接続型眼科診療機器による専門医遠隔相談サービス 	<ul style="list-style-type: none"> 僻地や離島、新興国等の眼科医不足の場所において、眼科疾患の予防・早期発見・早期治療へのアクセスを提供
7	保健・衛生	ポラリス	<ul style="list-style-type: none"> 自立支援型デイサービス (介護) 	<ul style="list-style-type: none"> 多種多様なリハビリテーションの提供を通じたシニアのQoLの向上

*煩雑さを避けるためValue Chainの分類はしていない



2-2.アジェンダ2. グローバルヘルス分野のインパクトの測定・マネジメントの課題

アジェンダで選定した大企業、スタートアップ企業それぞれのIMM実施において想定される課題を討議することで、第3回研究会に向けて企業ヒアリング等をする過程で検証する”課題仮説”を立てる。

論点

1. アジェンダ1で選定候補となった大企業/スタートアップ企業のインパクトの測定に際して、想定される課題は何か
2. アジェンダ1で選定候補となった大企業/スタートアップ企業のインパクトのマネジメントに際して、直面する可能性のある課題は何か

机上調査から得られた一般的なIMMに関する課題

GSG 年次報告書

- 日本においては、「**インパクト測定・マネジメント（IMM）が断片的で体系化されていない**」が挙げられている。
- 融資の領域でサステナブルファイナンス、特に評価を行う商品が急増し（IMMの実現は別問題として一般社会の認識が）インパクト投資との境目が薄まっている印象がある。インパクト・ウォッシュ回避のため、評価・マネジメントのプロセスとしてサステナブルファイナンスとどちらが主流になるかの分水嶺に差し掛かっている可能性があり、**IMMの分かり易さ、特に利益実感の醸成が必要である**と指摘している。

GIIN 調査レポート

- 自社のIMMの実践は厳密さが増していると回答する投資家が多い一方、今後以下の課題に直面することが指摘されている
 - **インパクト・ウォッシングの懸念**
 - **市場がインパクトの成果を立証できないこと**
 - **インパクトの成果を同業者と比較できないこと**

(参考) 事務局が調査事業の過程で収集しているインパクト投資の事例から、インパクトの測定及びインパクトのマネジメントの課題について言及があったものを抽出して類型化している。

インパクト投資の事例から抽出されたIMMに関する課題

インパクトの測定に関する課題

インパクトのマネジメントに関する課題

1	<p>□ インパクト測定の精度</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 定性的なインパクト目標を設定した場合、社会的インパクトに対して投資がどれだけ貢献したかの数値化が困難なこと ➢ 適切なインパクトの算出に使用するIMMツールが無い場合があること (IRIS+であっても、開発中のインパクトがある等) など
2	<p>□ インパクト測定に係るコスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 精度の高い調査によるインパクト指標の設定・測定を行う場合、金銭的・時間的コストが発生して、事業実施主体の負担が大きいこと など
3	<p>□ インパクト測定結果の妥当性</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ インパクト関連指標の目標値を推計で算出する場合、事業実施後に実数値で測定すると目標値との乖離が発生するおそれがあり、投資スキーム全体に影響を及ぼす可能性があること ➢ 新型コロナウイルス等の不測の事態に際して、投資がどの程度寄与したかが判断し難い場合があること など

1	<p>□ IMMの独自ツールを使う場合の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 外部評価を受けにくいとため、外部基準を満たすために自前のロジックモデル・指標を外部基準を満たすように変換する等のコストが発生すること ➢ インパクト・ウォッシングだと評価されるケースがあること など
2	<p>□ IMM標準ツールを使う場合の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 投資スキームに合わせて複数の指標を組み合わせる必要があること ➢ 指標によっては成果の検証・評価の段階での柔軟性に欠けるものもあり、代理指標や中間指標の利用を検討する必要があること など
3	<p>□ 投資家と事業実施主体の間で生ずる課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 長期的なインパクトを単一の介入に当てはめることが困難である等、投資家と事業実施主体との間で、インパクトの目標設定や管理すべきインパクトに関して意見の相違が生じるケースがあること など